

(様式第1号)

令和1年度 第1回中小企業・小規模企業振興基本計画策定委員会 会議録

日 時	令和元年9月4日(水) 9:30~11:15
場 所	芦屋市役所東館3階中会議室
出 席 者	委員長 佐竹 隆幸 副委員長 黒野 秀樹 委員 永瀬 隆一 橋本 周三 小川 正和 榊原 俊太郎 森安 秀和 岸 和民 幟建 由佳
欠 席 者	なし
事 務 局	船曳地域経済振興課長, 森本商工観光・農林担当係長
会議の公開	■ 公 開
傍 聴 者 数	1人

1 会議次第

- (1) 開会
- (2) 委員長・副委員長選出
- (3) 議題

2 資料

- (1) 次第
- (2) 資料  
説明資料1  
説明資料2  
広域商業診断報告書

3 審議経過

- (1) 開会  
＜委員の紹介＞  
＜事務局員の紹介＞
- (2) 委員長・副委員長選出  
委員による互選で佐竹 隆幸委員を委員長に, 委員長指名により黒野 秀樹委員を副委員長に選出

4 議題

- (1) 計画の目標について
- (2) 具体的事業について

#### 関西学院大学専門職大学院 経営戦略研究科 教授 佐竹 隆幸（以下 委員長）

そもそも2010年、平成22年に民主党政権下ですが、振興条例の大本になる中小企業憲章が閣議決定されまして、それ以後都道府県市町村、全国の振興条例というものが作られるようになりました。

平成11年に、日本の中小企業政策がガラッと変わり、それまでは金融機関に象徴される所謂護送船団方式でしたが、ちょうど20世紀の終わりごろ、バブルが崩壊し、大企業や金融機関が潰れたりする出来事がおこりました。そこで、これからは中小企業にも活力を与えないといけないということで、経営革新と創業、あるいは第2創業を含めて、やる気のある企業、元気な企業、将来性のある企業を、重点的に支援をしていこうという方向に平成11年に変わりました。

それ以後、その施策が進められてきているのですが、日本の中小企業政策というのはどちらかといえば、何の政策でもそうだと思うのですが、平均主義をとるわけですね。平均企業規模がいくらぐらいで、その平均企業規模の企業に施策を施したら活性化するのではないかという考え方です。実はこれは非常に危険な話で、商工会の会員さんもそうですが、大半は5人とか10人とか20人とか、1人でやっておられるというところもたくさんあって、そういう企業は平均企業規模未満になってしまう。

だから、そういう企業に対しても何がしかの施策を創っていかないといけないということで、2014年、平成26年に小規模企業振興基本法、小規模企業支援法が成立、具体的に言うと従業員数が20人よりも少ない会社に対しての支援施策を、商工会を窓口にして進めていきたいと思います。

一方で、行政は、企業あるいは地域の活性化に向けて、国が及ばない細やかな規模で、地域の特性に合った、あるいは地域の産業構造や雇用構造に適した、何某かの体系的な施策を施していくことになりました。そこで、国がベースに持っている中小企業基本法とは別に、各都道府県及び市町村が「中小企業振興条例」あるいは、名称は違いますが内容は同じ「産業振興基本条例」、「地域振興基本条例」などを制定しました。若干違うところもありますが趣旨は一緒です。どちらかという地域に根差した、あるいは地域の企業規模に根差した企業の支援をしようというものです。芦屋市にどのくらいの規模の企業があるのか、震災の翌年から20年以上住んでいるわけですけども、あまり知らない。商工会の仕事をさせていただいて20年以上になります。元々の関わりは平成の大合併と絡めた商工会の合併施策である合併協議会、はじめは合併ではなく広域連携と言いました。結局芦屋は全然関係なかったんですけども。

芦屋は、商工会議所地域でなく商工会地域で、比較的規模の小さな企業、個人でやっていらっしゃるような会社、会社組織になっていない事業所が多い。それに対して、市としてどのような施策を施していけるか、いわゆる「ヒト・モノ・カネ」の提供ですね。

それを行政、金融機関、中間支援組織、経済団体等が一度、芦屋市が従来どんな施策をされていたのか、恐らく体系的に小規模事業所に対してですね、施策を検討していこうというのは多分初めてだ

と思うので、これから施策をまとめていくことになるわけですが、今日は何を言っていただいても結構です。夢を語っていただいても結構です。

芦屋市というのは全国的に見ても5本の指に入るくらい住みやすい、私はここにきて住みやすいなと実感しているんですけども、そういう中でどういう産業が、どういう企業が、あるいは芦屋としてのどういう地域振興が必要なのかというのは、今日はざっくばらんにお話をいただけたらと思います。

その上で、次回以後の様々な施策の原案を出ささせていただいたり、それをここで承認いただいたり、流れがあるのですが、今日は好きなこと、感じておられること、ご自身の経験・立場に従いましてお話いただけたらという風に思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

議題でございますが、計画の目標についてということ、具体的事業についてということです。まずは事務局の方からご説明をいたします。

#### **芦屋市役所市民生活部地域経済振興課 船曳 純子（以下 船曳課長）**

・説明資料1，説明資料2参照

#### **委員長**

ここからはご自由に発言いただけたらと思います。

ご意見・ご質問等ございましたらお願いします。では、商工会長としてたくさんの企業を小田さんから引き継がれている永瀬会長から。もう任期は3年ぐらいでしょうか。

#### **芦屋市商工会 会長 永瀬 隆一（以下 永瀬委員）**

昨年の10月からなので1年くらいです。

#### **委員長**

地元のミニスーパーなどは、コンビニが周りに出来たりすると、経営がしんどくなりますね。私は伊勢町、呉川町の辺りに住んでいますが、ポツンと魚屋があったりします。商工会員さんだと思います。ポツポツと現代的な店も新しい創業がありますが、昔ながらの店もずっと残っていますが、商工会さんで支援されていると思います。

#### **永瀬委員**

数字からいきますと、先程資料でありましたように、経済センサスでは2,800社以上あることになっている一方、芦屋市商工会の現在の会員数は950前後です。創業される方、廃業される方が毎月それぞれあって変動しています。

#### **委員長**

比率的にはどうですか？すみません、失礼なことを言うかもしれませんが、大体、商工会議所の組織率は、もう10%とか20%とか低いのですが、商工会の組織率は大体5割を超えているようですが。

#### 永瀬委員

超えています。

#### 委員長

どちらかという、すみません失礼かもしれませんが、芦屋の組織率は割と低かった？

#### 永瀬委員

そうですね。すごく低くて、現在県下では一番低い状況になっていますし、5割を切っているのが3つか4つくらいしかない状況の中でダントツに少ないということになっています。この組織率というのが、商工会委員数を全事業者で割った数字としてカウントされるのですが、分母自体がどうやって計算しているのか、どの事業所が含まれているのかは、教えてもらえないので、正直勧誘も難しい状況でした。さらに、この数年は、商店会・商店街の中でも、その商店街に属していない、その上で商工会にも属していない店舗さんがすごく増えてきています。この経済センサスの分母を言い訳にする前に、我々も分かっている状況です。

#### 委員長

市の調査はどんなところに出しているのですか？店舗と思う所には全部ピンポイントですか？

#### 船曳課長

この経営者実態調査は商工会を通じ会員さんをお願いしています。それ以外はたまたま知っているところくらいしかお配りできていないです。

#### 委員長

それで行くところ、2,800や900とかはもちろんこれ、国の調査ですよ？だからどんな調査の仕方をしているか分からないですよ？

#### 船曳課長

全く分かりません。そんなにあると思えないのですが。

#### 永瀬委員

この中には、神社仏閣や、親御さんから継いだものをただ維持しているだけの人、部屋の中で副収入を得るような創業をされている方が含まれている可能性があり、そういう人はなかなか商工会には入りづらいのかなというところがあります。先程も言いましたように、現状で明らかにそこで商売しているのも見えるし、その中に商店街があるのも分かっているけど、入会しない、お付き合いしないと言う方も実際多いので、商工会の在り方であるとか商店街に属す理由をちゃんと説明できなくなっている。

先程ちょっと話にもありましたけど、私で継続して3代目の世代になりますし、芦屋市内で2代目、3代目、4代目の会社が増えてきていて、そうなる若い経営者の発想もちょっと変わってきて、年

賀状をやめたり、お中元お歳暮をやめる、という発想と一緒に、商工会とか近隣のお付き合いをやめるという方向です。

### 委員長

これは、必ずいろんな経済団体に対していうのですが、「経営者にとって最大のリスクヘッジは学ぶこと」です。情報を収集し情報を発信することです。そのためには組織に属しないと、例えば「こういう研修会がありますよ」とか、あるいは「国のこういう施策がありますから、それに申請してみませんか」とか、今はネットの社会ですからいろんな情報が入ってきますが、その中で取捨選択された情報というのは、商工会などいろんな組織に属してないと入ってこない。

必ずしも組織に属したからといって補助金もらえるとは勿論限らないし、お客さんが増えるとは限りませんが、例えばビジネスモデルを作るとか、そのお手伝いは間違いなくしてもらえるので、その辺りの価値を広報していただくと、商工会の役割というのは全然低くなっていないと思います。その辺りの広報活動、ちょっと言い方は悪いですが勧誘のような状況はどうですか？オブザーバーの商工会事務局長に聞いた方がいいかもしれないですね。

### 芦屋市商工会 福本 敏之 事務局長（以下 福本事務局長）

勧誘に関しましては、具体的には法人登記されたデータというのは公開されています。最近では4年分、430件くらいありました。芦屋市内で新規法人設立事業所に商工会加入のおすすめのパンフレットとか直接郵送し、新会員拡大の活動をしています。行き当たりばったりで進んでいる状況で、たまたま問い合わせがきたり、跳ね返りを期待しています。

### 委員長

巡回による経営指導というのは、もうされてるわけですよね？

### 福本事務局長

もちろん巡回をし、新規出店の所には飛び込み的にとか、近隣の既存の会員さんを通じて投げかけをしたりとかします。もちろん、いろんな形でアタックはして、入っていただける方もいらっしゃるのですが、全体を通じて辞められる方がやはり多いというのが現状です。

年間約50から100くらい入られる時であっても、また100近く辞められます。入と出が激しいのが特徴かなと思います。

### 委員長

とにかくこういう施策が並んでいても、行政の施策も含めて情報が入ってこないと使いようがないというぐらいでよろしいですか？

### 永瀬委員

そうですね、そういった意味では今回この委員会ができることによって、商売の一つの成功例として、商工支援団体に属するあるいはそこから情報を手に入れることを推進するような中身が一つ入っ

てくればいいなと考えています。実際、いろんな施策があっても、知らないとできないし、誰に相談してもいいのか分からない。

もちろん我々自身も努力して、商工会に入る理由を説明していかないといけないんですが、入らない理由として、テナント貸ししている不動産屋さんが、早くテナントを埋めたいから、住宅の場合に「自治会に入らなくていいよ」というのと同様に、「商店会とか商工会に入らなくても別にいいですよ、強制力はないですよ」という話で早く店舗を埋めていこうとする状況もあって、こちらが勧誘に行った時には、「そんな話聞いてないし」ということがあり得ます。

#### 委員長

例えば、融資受けるにしても、やはり情報がないと、あるいは設備投資するにしても、メリットは間違いなくあると思いますので。

では、次は観光ですが、芦屋で観光と言うと大体山歩きなんですね？散策？

#### 船曳課長

お客さんが多いのは山です。ただ、実際にお金が落ちているのは芦屋市以外の場所になると思います。

#### 委員長

谷崎純一郎、細雪はあんまり関係ないですか？

#### 船曳課長

観光客数は結構あります。伊勢町の道を歩く人結構います。

#### 委員長

あそこから、浜芦屋の方をずーっと川べりを歩いていくのが割と気持ちのいいコースですからね。

#### 船曳課長

観光協会に対してガイドの依頼があるのはほぼそのあたりです。谷崎と美博が人気です。

#### 委員長

あとは芦屋川の桜かな？橋本委員はいかがですか？

#### 芦屋観光協会 理事 橋本 周三（以下 橋本委員）

おっしゃる通りでございますが、課長も指摘されていますけれども、あまりお金の落ちない来街客が非常に多い。もちろん日帰りですし。

#### 委員長

泊まる場所というのは、竹園さんの他にあるんですか？

**橋本委員**

あるのですが、無いに等しい、稼働はしていますけれども、認知もされていませんし。

**委員長**

確かに、田園調布に観光に行くとか、世田谷に観光に行くなんていうのはないですからね。だからそれと同じような感じかもしれないですね。

**橋本委員**

一概に比較できないのは、芦屋市には海と山がありますので、開発自体は十分可能ですし、古くからの文化は残っている、建物とかもたくさんあります。観光客、人の流れを作ることは不可能ではないとは思っています。

**委員長**

やはり神戸も含めた周辺との抱き合わせには多分なるんでしょうね。芦屋だけに来られる方は、失礼な言い方になりますけど、多分ない。

**橋本委員**

おっしゃる通りです。ただJR芦屋駅っていうのは、尼崎それから三宮と比較しましても、近隣の大きな駅と比較しましても、非常に利便性の高い駅だということは間違いなので。

**委員長**

JR駅南の再開発はいつできるんですか？これからしばらくかかるんですか？

**船曳課長**

予定では令和3年だと思うんですけども、まだわかりません。

**委員長**

出来そうには全然思わないですね。

**橋本委員**

急いでやるものでもないと思いますしね。本当に玄関口にしたいと思うのであれば、もっと準備をして機能性を高める必要が多分にあるかと思っています。

**委員長**

やっとドトールが出来ましたけどね、スタバがない。多分大きくなったら出来ると思うんですけど、北側に対して、南側はまだタクシーのロータリーがあるだけですのね。南の再開発ではどうなりますか？

**船曳課長**

今あるところは全部ビルになるので、お店的には地権者がメインで入るだろうと思われれます。

**委員長**

そういうことですね。どんな感じになるのか、当然テナントもいろいろ入られるでしょうし。

**船曳課長**

今ある路面の方がそのまま入られる可能性が結構高いと思います。

**委員長**

せっかく、お金かけていますからね。

**橋本委員**

同じかけるなら、もう少しお金かけた方がいいと思います。交通網の話がありましたよね。やはり本当に玄関口にするなら、大型バス含めて、タクシー、自家用車も芦屋は多いですから、かなり機能的にしないと、全く駄目な駅になってしまいます。そうなると、ほぼ芦屋の観光含めて商工関係も駄目になるとは個人的には思っています。可能性はたくさんあると思いますけど。

**委員長**

橋本さんご自身は、観光系のお仕事をされているのですよね？

**橋本委員**

本当に小さい旅行業で、オリジナルの、オーダーメイドの商品を、おひとりさまから数百人のグループ様対象にしています。

**委員長**

ありがとうございました。小川委員からご意見をお願いします。

これも事務局と打ち合わせするときにお話ししたんですが、芦屋には金融機関があまりありませんよね。メガの店舗なんていうのはどんどんなくなっていっていますから、地方銀行、信用金庫、特に信用金庫の役割というのは、もちろん政府系金融機関もそうなんですけれどですが、メガバンクが存亡の危機でどうなるか分からないとなれば、地元のローカル企業、コミュニティ企業というのは、地域金融機関に相談に行くしかありません。メガバンクの店舗があまりないですね？

**船曳課長**

少ないですね。

**委員長**

小さな創業間もない事業者の金融支援をどうするのか、これは一つの課題になると思います。

**(株)日本政策金融公庫 神戸東支店支店長 小川 正和 (以下 小川委員)**

芦屋の事業者は小規模が多くて、そこから大企業に発展していくことも少ないので、金融機関が支店を構えるメリットが低いのでしょうか。

**委員長**

時代的にはそういう時代ではないと思いますから、下手に大きくしない方がいいと思います。

**小川委員**

私どもは日本政策金融公庫の中でも、昔の国民生活金融公庫の業務であり、小規模の先をメインにご支援しています。隣の西宮を比較しても、人口を始め芦屋の方が規模は小さいですが、創業は非常に活発です。経営改善資金融資の実績も多い。その分、先ほどから話に出ているように撤退するところも多いのですが、新陳代謝が速いとでも言うか、今のところは、その撤退したところにまた新しい事業が起きています。

**委員長**

経営改善融資は商工会の案件ですよ。ここはどんな感じですか？

**永瀬委員**

希望者は非常に多いですし、ただ芦屋は事故率も多いので、先程言った廃業が多いので。

**委員長**

芦屋ではあんまり出てこないんですか？

**永瀬委員**

聞いていたところでは、尼崎信用金庫が多い。

**委員長**

みなさん、芦屋市内や、神戸、西宮、尼崎の金融機関ともお付き合いするんでしょうが、私の問題意識としては、まさか芦屋市内の金融機関店舗を増やせなんて言えませんが、ちょっとこの状況はどうかなと思うんです。

**小川委員**

商売としてうま味があるかないかという、決してうま味がある方ではないのでしょうか。創業のようなリスクだけ取るのではなくて、他で稼げる商売があればいいのでしょうか。この状況で、創業融資を始め、リスクテイクに積極的な尼崎信金さんのような金融機関が支店を構えているのが実態でしょうか。我々、政策金融機関は、リスクの高いところをフォローするのが業務ですから、芦屋

市商工会にも協力いただきながら、政策推進にたいへん貢献いただいでいて、ありがたいと思っています。

**委員長**

はい、ありがとうございました。榊原さんになにかご意見を。

**兵庫県信用保証協会 阪神事務局長 榊原 俊太郎（以下 榊原委員）**

ちょっと気になったところが、廃業率が県下でも一番多い

**委員長**

なぜでしょうか？

**船曳課長**

飲食業のみなさんが言うには、継続が難しいそうです。

**委員長**

そんなに回転早いのですか？

**船曳課長**

最初の半年全く客が入らないとのことですよ。

**委員長**

そうですか。

**船曳課長**

お客様が保守的だとおっしゃる。そこだけに原因があるかわ分らないですけども。

**委員長**

確かに私も外食するのが好きだから行くんですけど、同じ店しか行かないですね。何件かあるのですが、そういうことなんですか。有名な店がいっぱいありますからね、ミシュランに載りそうな店もいっぱいありますから。

**榊原委員**

廃業事業所590は、これは1年間でのものですか？

**船曳課長**

いえ、前回からのと聞いていますけれども。

## 委員長

24年のセンサスからです。

## 榊原委員

今の経営者の方が高齢になられて、そろそろ子どもも独立しているし、もう辞めようかなという、ハッピーリタイアの例がこの中にどの程度あって、反対に事業を開業したものの思うようにいかずにもう3年程度で廃業したというものも、どっちも含まれていると思いますけれども、このへんの内訳がもう少し何か分かれば、もう少し見えてくるのかなという風に思います。

## 委員長

個別にヒアリングしないと仕方がないですが、廃業しているのでヒアリングできませんね。

## 榊原委員

後者の方であれば、創業後支援がポイント。創業は比較的割と施策も充実しているし、資金調達というも割と手厚くしていると思うのですが、創業はしたもののという、その後の支援がどうなのかなという気がしますが、けれども。

## 委員長

ありがとうございました。では森安さん。

## 兵庫県阪神南県民センター 副センター長 森安 秀和（以下 森安委員）

私は芦屋っていうのはすごくこう敷居の高いというか、そういうイメージがすごく強いんです。

芦屋の中で地域の活性化というか、振興という意味では、景観とか住んでいる人の住み心地とかというところを非常に重視するというところなのか、あるいは、効率性とか利便性とか駅前前の駐車場であったり道の広さであったりとかというところを重視して、全国画一的な街に近づくようにいってしまうのか、どちらを、20年後30年後の芦屋の姿として思考されているのか。我々からすると芦屋は芦屋のまま、景観とか住み心地とかというものがメインというか第一位の価値として出てくるかなという気がするんですね。そうすると、例えば人が集まるにしても、知っている人は集まるっていう、東京で言うと代官山とか自由が丘とか何っていうものはないけど、人は集まる。

## 委員長

代官山や自由が丘でもいい店がずら一と並んでいますからね。あれは一日つぶしても結構歩けませぬ。

## 森安委員

田園調布みたいなところは行かないんですよね。

## 委員長

田園調布は住宅地ですから。

#### 森安委員

大きな渋谷とか品川とかそういうところを目指すわけでも全然ないので、だとするとどういう風になっていくのか。

#### 委員長

代官山なんてずっと歩いていくと渋谷まで行けるぐらいの所だったので、もちろん住宅街としてマンション、タワーマンションずら一っつと建っていますからね。やっぱり芦屋ってああいう感じなんですよね、本来は。

#### 船曳課長

恐らく目指しているのは多分そのような感じ。

#### 委員長

ただ、ああいう新しい店舗、手作りも含めた雑貨のようところがずら一っつと並んでいましてね、もちろんブランド物もあるんですけども。それになると地元の商店さんは圧迫されるわけだから、それはそれでどうなのか分かりませんがね。

#### 森安委員

その中で、例えばインバウンドの方とか大きなカバンを持って行き来するというようなことを街として受け入れていくのか、いかないのかというようなところも含めて、将来的な在り方というか方向性をまず示していく。そういう風なビジョンがあった方がみなさん話やすいのかなという風には思っております。

#### 委員長

はい、わかりました。ただこれからはインバウンドは受け入れざるを得ないでしょう。

#### 永瀬委員

おっしゃるように芦屋市は非常に小さい街ですけども、小さいなりにエリアが違って、街のでき方がもう違うので、そこを一緒くたにしていることが私は問題があると思う。

文化を残す所、新しくする所、臨港線より南はもう最近できた所なので、完全に新しくなっているので、そういう所を持ってくるならいいでしょうけど、山手町とかは文化的に、道なども綺麗なところはあまり触りたくないでしょうし、そこを分けないことには、一緒くたに考えているうちは難しいという思いです。

#### 委員長

はい、では岸さんから。

## 公益社団法人 兵庫県勤労福祉協会ひょうご仕事と生活センター

### 阪神事務所長 岸 和民（以下 岸委員）

労働関係者という立場から申し上げますと、企業や団体がワーク・ライフ・バランスを推進するためには、やっぱりある程度の規模が必要で、実際20人とか30人とか、それ以上の規模にならないと、経営者と労働者が一緒になって組織的に残業時間を削減しようとか仕事の効率化を進めようという動きになりにくいのが実態です。芦屋市の場合、従業員が5人以下の事業所が大半で、企業や団体が組織としてワーク・ライフ・バランスを進めていくというのは、現実問題としてはなかなか難しいなどという感じを持っています。

それからもうひとつ、女性活躍という視点です。芦屋市には自分の仕事を通じて、自己実現をしたい、人生を豊かにしたいという女性がたくさんいらっしゃると思っています。そういう人たちにどのような形で働いてもらうか。また、働く場を提供していくか。芦屋市が活性化し、元気になるように、また、まちのイメージアップにも繋がるような働き方や働く環境をつくっていくことが必要じゃないかなと思います。

### 委員長

ありがとうございました。じゃあ幟立さん。

### Work and place 幟建 由佳（以下 幟立委員）

事業所を運営している視点と、市民の2つの視点からいろいろ考えました。昨年4月にコワーキングスペースを作った時も、関西にはあんまりこのようなスペースはない上に、WEB系ライターの仕事をしている人が、コワーキングスペースを利用しているイメージだった。でもそれは従来の形であって、芦屋で作るならおっしゃったように、女性で活躍している人が多いというのは日常生活でもすごく感じていたので、絶対そこに着目するべきだと考えていました。そこで、芦屋市らしくない非日常的な空間を作りました。

### 委員長

全然そんなことないじゃないですか。芦屋らしくないことは全然ないと思うんですよ。

### 幟立委員

派手な感じで、ロイヤル感があまりない雰囲気です。

### 委員長

要するに芦屋の有閑マダムは働かないというのは昔の昔の話ですよ。これからは、お金のあんなしに関わらず女性は働きますからね。だからそれは芦屋らしいんじゃないでしょうか。

### 幟立委員

正にオープンして分かったことは、9割が女性なんです。いろんな方がいらっしゃいます。芦屋ら

しさというのでいうと、芦屋、苦楽園、岡本この辺りの方で占めているんですけども、ご主人もお仕事されていて、自分は子育てしながら、自己実現していききたいなという意識の高い人が多い。スキルがある人、大きな会社に勤めていた人、何かしていた人っていう意識の高い女性の方がすごく多いなという実感があります。それがこの1年くらいスペースを運営してきて、やはりそうやなというのを今感じています。ある程度住環境も整っていて、お家のこともちゃんとしたい、ライフスタイルも整えたいっていう人も多い。なので、仕事場と自分の家が近くっていうのは必須で、スクール、パソコンスクールが芦屋市内にあると働きやすい。お迎えの間に行けたり、移動時間を短縮できるというのは、働きながら子育てをする女性にとってもとても助かるはずですよ。働く準備が出来る場所が近くにあるのはうれしい。コワーキングスペースではコミュニティがどんどんできて、面白い。みなさん社交的ですし、それぞれが自立されている人が多い。

重複しますが、家事子育てをきっちりしたいという思いのある人が多く、それを両立したしたいと思っている人、すごく意識が高い人が多いなという印象です。

住民としての視点をお話すると、今15年くらい芦屋に住んで子育てもしていますが、教育熱心な方がすごく多いと思います。あえて芦屋に引っ越してこられてる方とか多いということも聞いたことがあります。

#### 委員長

そもそも、塾とかあるんですか？

#### 船曳課長

多いです、結構。

#### 幟立委員

例えば、知性と華やぎの街芦屋みたいな感じで、教育関連のサービスがあれば、市外からそれを求めるご家族の方の流入が増えるということも考えられるのではないかな？と思ったりします。

#### 委員長

学童保育とかね、保育園とかはどうなんですか？あんまり聞いたことがないので。

#### 船曳課長

こども園を増やしつつあるところですよ。だからといって待機児童は0になりません。学童保育は徐々に改善しつつはあると思うんですが、時間帯的にはやっぱり、神戸の民間さんとかと比べると圧倒的に時間が短かったりですか、神戸市のように児童館とかでなく学校に併設されていますので、施設的なキャパの問題というのがいつも付きまといまいます。

#### 委員長

うちの娘は6年生までは神戸の学童保育に行かせてましたもんね。芦屋に適当な所がなかったのよ。

## 船曳課長

今でも深江の民間などに行かせていらっしゃる方が結構います。

## 幟立委員

教育も大手の進学塾とかだと西北の方にいい先生がいるとかそういうのは、そういう所にお任せし、例えば今から必要な、生きる力を教えてくれる教育サービスがあるというのもよさそう。「芦屋にちょっと一歩先に進む教育があるらしいよ」っていうちょっと先を見ている人たちが注目するような。具体的なサービスは指導者の情報は、今は全然ないのですけれども。

芦屋の美しい景観は今から作れるものではないので、やっぱり景観は守ってほしい。さらに、神戸との違いでいうと、浜で海遊びが出来ますよね、これは神戸にはできないですよ。なので芦屋浜のレジャーやイベントを出していくと魅力が活かせるように思います。阪神間のリゾート地などそういう感じでも魅力的かなと思っていたりしました。

JRの南側のビルについては、芦屋の景観を眺められるようなオープンでガラス張りのお部屋とかがあったりすると、四方どこから見ても景観が良くてすごく気持ちがいい芦屋を楽しめるなど思うので、そういう建物になったらもっと人が入ってきそう。都会でちょっと疲れた人が芦屋に癒しにくるような？いろいろ点でバラバラになってしまいましたが。

## 委員長

ありがとうございます。ちょっと予定の時間を過ぎておりますが、一旦皆様方よろしゅうございますか？

## 永瀬委員

事務局の方に4点ちょっと確認というか、お願いというか、委員会についてですが、提示されたスケジュールが確定したものではないという話の中で、年度ずれがありえますか？もうここまで決めてしまわないといけないのか、あるいは議会通すのであれば、不完全なものそのままでもいいのかどうか。

## 委員長

基本的にそれはこの委員会でどういうまとめ方をしていくかということだと思いますので。

## 永瀬委員

年度ずれの可能性はあるということですか？

## 委員長

可能性はあるということでしょう。それは一旦ちょっと分からないということ。

## 船曳課長

無理やり3月に収めてしまおうというわけではないです。

#### 永瀬委員

分かりました。それと、施策の策定委員会ということになっていると思うんですけど、実際にどのようなものを作るのか、この15ページにある取り組みみたいなことですか？

#### 委員長

初めての委員会ですから、それもこれからです。要するにこれだけのものを作ろうと決めちゃうとなかなかハードルが高くなる可能性もあるので、ちょっとそれは一旦預からせてください。

#### 永瀬委員

そうですね。こういうのを作るのに慣れていない人間が集まっているとは思えないので、何をするかという所で、事務局の方からある程度の度ひな形であるとか。

#### 委員長

それは、こういう審議会は必ず原案は出していきますので。それに基づいて協議します。

#### 永瀬委員

今日は出ていないですね。

#### 委員長

今日は1回目ですから、ご自由になんでも語っていただき、一番最後に申し上げようと思っておりますが、今日のご意見を踏まえて次の委員会に向けて原案を作成させていただきますので、その原案に関しましては私に一任ください。

#### 永瀬委員

分かりました。あと、委員の任期が明確になっているんですけど、策定された時点で解散？

#### 委員長

それもまたやり方によります。例えば政策を作るとき、こういう委員会というのは政策を作るための委員会だけではなくて、政策を今度ちゃんと実行できているかどうかの検証委員会に変わったりすることもあるので、そういう風になってくると、一旦3月31日までですけど、来年がこのままこの委員会で行くか、進化した委員会で行くかも含めて、それはこれからの流れの中で変わってくると思います。

#### 永瀬委員

この準備委員会と実行委員会が同じものになるのか別のものになるのかまだ確定していないということですね。実施されたらされたで、消費者教育のやつと一緒に、実行ごとに評価していくんですね。そしたらその委員会の設置になりますか？

## 委員長

多分そういう風に。ただ、まだそこまで行政としては決めておられないと思うので。

## 永瀬委員

加えて言うなら、実行後のスケジュールも3年って決まっているのであれば、それもある程度見えてくるのかなとおもいます。それが施策の中に入ってくると思うので。

## 船曳課長

3年か5年かなという感じです。

## 委員長

とにかく、申し訳ありませんが、今日始まったところなので、とにかくルールを作るということはいたくない。もうやりはじめましたので、どれだけいい意見が出るか、あるいは当然予算との関係もあるし、その中で、例えば企業さんの意見なりあるいは住民の方のニーズなりとのすり合わせもしていけないといけないし、だから半年ではなかなか難しいところがあると思います。

## 永瀬委員

私も懸念するのはそこです、実にタイトだと感じています。

## 委員長

だから、今日はもう少しふわっと見ていただけたらよろしいと思うんです。

## 永瀬委員

了解しました。

## 委員長

では、黒野さん。

## コア・サポート株式会社 黒野 秀樹（以下 黒野委員）

今日は様々に皆様方からご意見いただきまして、私なりに考えましたのは、商工業者のこの芦屋における実態というのはデータが示す通りで、私ども中小企業診断士になりましてもう20年になるかと思うのですが、やはりその間にも大きく変わってまいりました。一番鮮明なのは高齢化で、これは廃業と一対のものかなというところでもあります。

ただ、一方、開業率も以前に比べれば増えて参りました。そんな中、ご承知かどうか分かりませんが、県のホームページによると兵庫県下の高齢化率はものすごく偏差があります。一番トップが佐用町の41.5%、100人の内41人の方がですね65歳以上である。これは平成31年2月1日現在のデータでございますが、一方で一番若いとされている西宮市さんが23.5%ということで、この一番トップの佐用町の41.5、一番高齢化率の低い西宮が23.5、約6割違うんですね。2番

目に若い三田市、伊丹市というようなことで、若い順ベスト3は全部阪神間が入っています。

一方で、2番目に多いのが但馬地区の香美町あるいは3番手の新温泉町いずれも40.6%、39.6%ということで4割近いんですね。そうしますと、県下の商工会いろいろとお手伝いをさせていただきますと、あっちの但馬地区はですね、本当にもうないものづくしなんです。

一方でこちらの阪神間は、西宮市さんの創業塾、今5回シリーズの3回目でかなりヒートアップしておりますが、毎回30名を超える応募者の中で厳選をされているんですね。事業計画のない人は創業塾に来ないでくれぐらいのスクリーニング、ふるいにかけてやるぐらい企業熱が高い地域でございます。

そう考えると、様々に課題が多い、問題が多いという事務局のご提示のこのデータ、もちろんあるのですが、そんな中でわたくしは今日感じたところは、「ないものづくし」でやると前に進まない。そういう部分では芦屋の芦屋らしさ、あるいは強み、そんなところを上手く持ち寄りながら、弱みを補完する。事業者数が少ないとか高齢化であるという一方でやはり市民との協働という部分では、まだまだ販わいを創出できるという風を感じております。

8年前からご縁をいただきまして、北海道の北見市の障がい者団体のご支援をさせていただいており、彼らは、北海道の耕作放棄地を耕作しています。そんな大きいものではなく、小さな耕作放棄地ですが、無償でお借りをして、農作物を障がい者の子たちが栽培し、それを障がい者の子たちが作ったからという同情的なお話ではなく、あくまで産業として独立するために、マーケティングをしっかりとサポートして、大阪のパッケージの会社にデザインのヒントをいただいたり、様々な方々のご協力を得ながら、立派に今新しい産業として、収益事業をやっております。

あるいは、建設現場で不要になった建設廃材を建設業の方にお問い合わせをして無償で提供いただいて、それをチップ状にして、銭湯の燃料として、地域の銭湯の方に販売しています。廃棄物を資源化するような、そういう風な取り組みもやっています。

資源を持ち寄れば、その地域の魅力につながるのではないかと、芦屋の起業の特徴というところを、私どもも商工会の起業塾をお手伝いさせていただきまして、芦屋の創業には非常に大きな特徴が近年出て参りました。

幟立委員がおっしゃっていたように、ご自身のキャリアを生かす女性の起業は、かなり社会的な貢献度の高いソーシャルビジネスとしての起業もかなり増えております。そういった加減で従来の起業あるいは従来の商店の活性化というのは、もう少し枠を広げて、市民に愛され育まれるような、そんな取り組みも新たな事業として捉えるならば、ますます広く展開できると思います。

今回お集まりの委員の皆さん方は、非常に関連の情報をお持ちかと思しますので、随時そんないいものを集めて、ないものねだりよりも、あるもの探しで、これから皆様方とともに議論を高めていければなという風を感じております。

## 委員長

今日いろいろとご意見を頂戴しましたものを、事務局にまとめていただきまして、私とちょっと相談をさせていただいて、今のところ、10月に2回目のこの会議をさせていただくことになっております。

10月にやるかどうかも含めて事務局と相談させていただきますけれど、原案の作成をさせていた

だきます。

その原案については一旦私の方にご一任をいただきまして、それをベースにここでまた議論を進めさせていただきますので。

よろしゅうございますでしょうか？はい、ありがとうございました。そしたら事務局の方から。

#### **船曳課長**

はい、そうしましたら、皆さんありがとうございました。次回また調整いたしますのでよろしくお願いいいたします。ありがとうございます。

#### **委員長**

どうもありがとうございました。